



野の楽の生れむ吾亦紅点々	千田 百里
立冬や平らかに粥炊き上がり	辻 美奈子
曼珠沙華いくつのまさか越えきしか	頓所 友枝
初雪の消えやすきさまいとしかり	小野 寿子
行く秋や職で町割る城下町	峰崎 成規
微笑むは静かなる拒否秋澄めり	栗原 公子
霧の街無声映画を観るごとし	広渡 敬雄
卓袱台の足の踏んばり栗ごはん	菊地 光子
鳥けもの寝落ち銀河の奔流す	大沢美智子
鳥影の往き交ふ日なり障子貼る	佐々木よし子
指切りは小さき手枷十三夜	能美 茅柴
石垣は城址の鐙秋高し	福島 茂
旧道の三河屋元気鴟高音	高木 嘉久
生きるとは繰返すこと鳥渡る	中村 重幸
振り向けばみな消えてゐる夕花野	村上 葉子
瘦せ我慢通し切つたり鷹の爪	榎本 秀治
書架の本の息抜いてやる神の留守	兵藤 恵
獵期来る白神岳に男星	くどうひろこ
追ひ風に弓返りしたる雁の棹	道端 齊
開け放つ田の字の間取り柿の秋	岡澤 田鶴
鯨来るあらためて見る海溝囀	栗坪 和子
音あらばピアノニッシモなり鱒雲	川高郷之助
冬の暮連山鵝色がかかりかな	伊藤 文
雪起し空の瘴攣やもしれぬ	菅原 健一
風を押し風こそあらめ神渡し	稗田 寿明
源流の底より秋の澄みはじめ	澤田 英紀
カチンコのやうな踏切秋行きぬ	頓所 敏雄
松はみな風のかたちの島の秋	曾根新五郎
火屋あかりのみの湯に入る枯木宿	工藤 良丕
太古より空の背骨や天の川	矢野 隆男

沖 の 水 脈

